

かずきの博物誌

チョウトンボ

～環境がよい池のあかし～

文・写真／成田篤彦

昨年の晩夏に県道わきの神社の小池を訪れた(写真1)。お目当てはギンヤンマの撮影。池際の土手に真っ赤なシヨウジョウトンボが2匹いた。稲には未熟な穂が出ていて、秋の気配が漂っていた。水面にコカナダモが一面に繁茂し、小さな花が点々と咲いていた。そして、池の向こう

岸に一匹のギンヤンマがゆつくりと飛びまわっていた。土手から水面のぞきこむと高さ約1mのアシの枯れ枝の先端に黒いトンボが止まっていた。「あー！チョウトンボ。」と思いがけない出会いに嬉しくなった。約6m先にも同じように止まっていた。池の角のアシの葉にも止まっていた。対岸にも4〜5m間隔で止まっている。他のチョウトンボが近づくとさっと飛び上がり、下から突き上げるように追い散らす。それを何度も繰り返していた。しばらくすると池のやや中央寄りのヨシの枯れ枝に雄と雌が連結しているチョウトンボが止まった(写真2)。雄雌とも体全体が黒光りする銅色。雄の顔面は濃い青紫色。後ろはねがとも幅広く、はねの大半が金属のような光沢のある黒色をしている。雄は青色が強い。彼らのはねを右や左に傾けるたびにはねが濃い青や紫色にキラキラと輝く。連結はすぐに解け、雌が水面に尾を打ちつけて産卵していた。その時、小さな波紋が広がっていった。

土手の草むらではチョウトンボが一匹はねを休めていた。上空を見上げると三匹のチョウトンボがカシのこずえの下をヒラヒラヒラと紙飛行機のように飛び交っていた。県道では頻繁に車が通過するが、それにもかかわらず、広々とした水田の中の小池では薄緑のアシの葉の間や上空のこずえの下を飛び交うチョウトンボの姿は、穏やかで物静かな雰囲気をもも出していった。

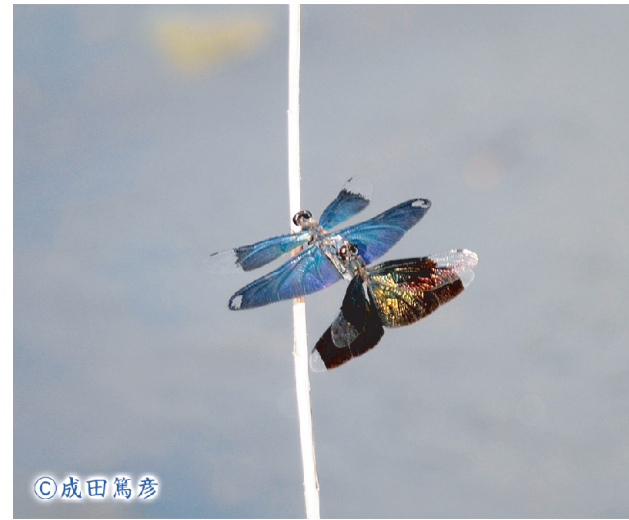
さて、この小池は水田用の溜池。このトンボも弥生時代以来の稲作文化によってたくさん溜池が造られたため増えてきたトンボなのであろう。だから、かつては身近に数多くいたトンボであったに違いない。ところが、保護上重要な野生生物(千葉県レッドデータブック「動物編2000版」)によると「チョウトンボは西日本に多いが、近年環境破壊で激減している。」という。また、新井裕著『トンボ入門』(2004どうぶつ社)によれば「このトンボが生息する池や沼は環境がよいあかしである。」という。かずさではこのトンボがいまだに各地で見られるから、かずさにはまだ、汚れの少ない池沼があるということであり、喜ばしいと思う。



©成田篤彦

▲(写真1)チョウトンボの生息地 水田地帯の溜池 幼虫は平地や丘陵地のアシなどの植物が豊富な池沼に生息。(2008年7月筆者撮影)

◀(写真2)雌雄連結したチョウトンボ トンボ目トンボ科 腹長21-26mm、後はねの長さ33-38mm。左が雄、右が雌。角度によってははねなどが濃い青紫色に輝く。千葉県指定一般保護生物6月中旬～9月中旬に出現(2008年7月筆者撮影)



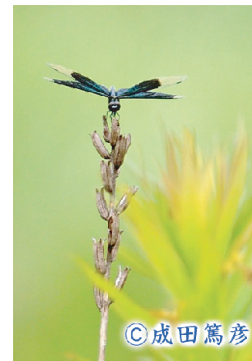
©成田篤彦

さて、この小池は水田用の溜池。このトンボも弥生時代以来の稲作文化によってたくさん溜池が造られたため増えてきたトンボなのであろう。だから、かつては身近に数多くいたトンボであったに違いない。ところが、保護上重要な野生生物(千葉県レッドデータブック「動物編2000版」)によると「チョウトンボは西日本に多いが、近年環境破壊で激減している。」という。また、新井裕著『トンボ入門』(2004どうぶつ社)によれば「このトンボが生息する池や沼は環境がよいあかしである。」という。かずさではこのトンボがいまだに各地で見られるから、かずさにはまだ、汚れの少ない池沼があるということであり、喜ばしいと思う。

とここで、数多くのアカトンボの俳句や和歌はあるが、チョウトンボのは見つけれなかった。また、アカトンボは透明なはねをもち、速いスピードで上空を飛行するが、同じトンボ科にもかかわらず、このトンボは幅広いはねをもち、全身黒づくめで、チョウウのようにゆったりと舞うように飛び、形や色や飛び方が大きく違っている。しかし、多くの歳時記には写真が掲載されていて、何か引き付けられるトンボらしい。チョウトンボは真夏から初秋のトンボであり、このトンボの舞う姿は草木や稲の生気を感じさせると同時に、豊かな実りを思い起こさせ、気持ち安らぐのではないであろうか？その意味も含めてかずさにこのトンボが舞う池や沼を残しておきたいものである。

〈参考文献〉

○石田昇三著(1969) 原色日本昆虫生態図鑑(Ⅱ) トンボ編 保育社



©成田篤彦



©成田篤彦

▲なわばりに侵入して追われるチョウトンボ (2008年7月筆者撮影)

▲池の近くの草地にいたチョウトンボ 若いトンボは水辺からやや離れた草地や木立などに移動。こずえをヒラヒラと飛び性質があり、時に小さな群れを形成する(2008年7月筆者撮影)